

2026年3月31日

食と体験で支える、子どもたちの未来

ひとり親家庭の子どもたちに、
安心できる「食」と、心に残る「体験」を届けています

No.1 総論（食と体験）

ひとり親家庭の中には、日々の生活に加え、長期休暇中の食事に不安を抱えるご家庭も少なくありません。特に学校給食がない期間は、子どもたちの食環境が大きく変化することが課題となっています。

当財団では、こうした状況に対し、「食」と「体験」の両面から支援を行っています。

食支援においては、長期休暇中でも子どもたちが安心して食事をとれるよう、子ども自身でも簡単に調理できる食品を中心に提供しています。これらの食品は、支援団体と連携し、10トントラック単位で納品することで、必要とされるご家庭へ広く届けています。

また近年、家庭の状況によって体験機会に差が生じる「体験格差」も課題となっています。長期休暇について、「楽しみ」ではなく不安を感じる子どもがいるという声もあり、その背景には体験機会の不足があります。

こうした課題に対し、体験機会の提供にも取り組んでいます。

- ・映画鑑賞チケットの提供（クリスマス支援）
- ・スキー教室体験の実施

これらの取り組みを通じて、子どもたちに心に残る時間や経験を届けることを大切にしています。日常では得がたい体験は、子どもたちの視野を広げ、将来への希望や自己肯定感の醸成にもつながると考えています。

今後も、ひとり親家庭の親子に寄り添いながら、食と体験の両面から継続的な支援を行い、子どもたちが将来に希望を持てる社会の実現に貢献してまいります。



No.2 春休み食支援

食支援 →「春休み食支援(うどん・つゆの提供)」

長期休暇中の食環境を支える取り組みとして、春休み期間に合わせた食支援を実施しました。

本支援では、認定 NPO 法人埼玉フードパントリーネットワーク様を通じて、チルドの真空パックうどん約 17,000 食、つゆ約 8,500 食を、県内のひとり親家庭等へお届けしています。

学校給食がない期間でも、子どもたちが安心して食事をとれるよう、手軽に調理でき、子どもでも食べやすい食品として、うどんを選定しました。

配付を行った現場からは、多くの声が寄せられています。

「うどんが大好きなのでうれしかったです」

「たくさん食べる子がいるのでとても助かります」

「おやつにも食べるほど大好きなのでありがたいです」

「家族みんなで食べられるので本当に助かります」

また、子どもたちからのメッセージも届いており、日々の食事が安心につながっている様子がうかがえます。

今後も、子どもたちの健やかな成長を支える基盤として、「食」の支援を続けてまいります。



No.3 スキー体験

体験 →「スキー教室体験支援」

ひとり親家庭の親子に向けて、非日常の体験を通じた思い出づくりを支援する取り組みとして、スキー教室体験を実施しました。普段なかなか経験することが難しい雪山での活動やスキー体験を通じて、子どもたちが新しいことに挑戦し、親子で特別な時間を共有できる機会を提供しています。参加されたご家庭からは、多くの心温まる声が寄せられました。

「とても楽しくて思い出に残る一日でした」

「できなくて悔しがりながらも、最後までやり遂げる姿が印象的でした」

「親子で新しいことに挑戦する楽しさを感じました」

「会話が増え、子どもの成長や変化を感じることができました」

「一生忘れられない思い出になりました」

また、これまで経験する機会の少なかった体験に触れることで、挑戦することの大切さ、できた時の達成感、親子で過ごす時間の価値を実感されたという声も多くいただいています。

今後も、子どもたちにとって心に残る体験の機会を届けてまいります。



No.4 クリスマス支援

当財団では、ひとり親家庭の親子に向けて、クリスマスの思い出づくりを応援する取り組みとして、映画鑑賞チケットをお届けしました。本支援は、公益財団法人埼玉県ひとり親福祉連合会様を通じて、小学生のお子さまがいるご家庭を中心に、中高生のいるご家庭にもお届けしています。日常の中ではなかなか得られない時間を、親子で共有していただくことを目的としています。

お届けしたご家庭からは、心温まるメッセージが寄せられました。

「思い出作りのプレゼントに感激しました」

「ズートピア2を観に行こうと思います」

「温かい文面を読み、感謝の気持ちで涙が出ました。

いつか支援される側から、支援できる側になれるよう頑張ろうと思いました」

こうした声から、体験を通じて生まれる時間が、親子の絆や前向きな気持ちにつながっていることを実感しています。今後も、子どもたちにとって心に残る体験の機会を届けてまいります。

No.5 システム支援

仕組み →「食支援を支える仕組みづくり」

食支援をより多くのご家庭へ安定的に届けるため、**支援の仕組みそのものを強化する取り組み**にも注力しています。その一環として、認定 NPO 法人埼玉フードパントリーネットワーク様に対し、フードバンク運営を支えるシステムの導入・開発支援を行っています。

本取り組みは、当財団として最初に着手した事業であり、現在も継続的に改善・開発を進めているプロジェクトです。開発にあたっては、システム提供企業である株式会社アクアリーフ様と**協働開発体制**を構築し、現場の運用に即した形へとカスタマイズを行っています。

また、本システムは将来的に他団体での活用も視野に入れた設計となっており、**支援の仕組みそのものを広げていく可能性**を持っています。

現在は第 2 フェーズとして、更なる利便性向上と運用最適化に向けた開発を進めております。

取り組みのポイント

・**協働開発体制**

企業と連携し、実運用を前提とした開発を推進

・**現場起点の設計**

支援団体の業務に合わせたカスタマイズ

・**継続的な改善(第 2 フェーズ)**

運用しながら機能向上を実施

・**モデル化と展開性**

他地域での活用も見据えた設計

支援を“届け続ける仕組み”をつくる取り組みです。

目の前の支援に加え、それを**継続的かつ広範囲に届けるための基盤づくり**にも取り組んでまいります。



No.6 学習支援の食支援

学習支援の現場を支える食支援モデル

子どもたちの学びを支える環境づくりの一環として、学習支援の現場における食支援にも取り組んでいます。埼玉県学習支援事業においては、行政および運営団体と連携し、子どもたちが安心して学べる環境づくりを支援しています。学習支援の現場では、実施場所や運営方法が多様であるため、調理を伴う場合、お弁当を提供する場合、簡便に食べられる食品を配付する場合など、状況に応じた柔軟な対応が求められます。

こうした現場の実情に合わせ、食材費や弁当代等を円滑に精算できる仕組みを整備するとともに、必要に応じて食品の提供も行っています。また、公共施設を利用する教室においては、飲食に関する制約がある中で、各教室・運営スタッフが工夫を凝らしながら子どもたちへの支援を行っています。そうした現場の取り組みを支える形で、無理のない運用ができる体制づくりにも注力しています。

本取り組みは、他地域への展開も視野に入れ、より多くの子どもたちへ支援を届けていくことを目指しています。今後も、行政や関係団体と連携しながら、学びと生活の両面から子どもたちを支える仕組みづくりを進めてまいります。